

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表② (平成31年度(令和元年度)版)

(様式2)

No. 1

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題	
			①	②	総合				
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は90%以上である。	A	A	A	学習、部活動、学校行事のバランスをとりながら、学校における生徒の活動の充実を図った。	学校に対する満足度が高いことは素晴らしい。	部活動の在り方や学校行事の見直しを検討しながら、さらなる充実を図る。	
		② 「総合的な学習の時間」や「探究基礎」(1年)における活動を通じて自らテーマを見つけ、解決していく探究力が身についたと感じる生徒が80%以上である。	B	B	B	今年度から調べ学習から脱却し、実証的な研究を進めてきた。テーマ設定や研究手法を学びながら、グループごとに研究を進めることで、より主体的に課題研究に取り組む生徒は増えてきた。	探究型学習はアクティブラーニングにつながるスタイルと考える。プレゼンテーション力やチームワーク力にも力を入れていくとよい。	全体的なスケジュールが遅れてしまい、ポスター作成や、プレゼンテーションの練習等に十分時間を割くことができなかった。	
		③ 「イノベータ講演会」が探究活動の充実や活動意欲の向上に役立っていると感じる生徒が80%以上である。	B	B	B	講演会後に内容をまとめ、質問を考えることによって、探究活動に生かせるようにした。ただし、講演会の内容に興味を持てなかった生徒は、講演の意義について低い評価となった。	講演会は高校生にとって刺激にもなる。さらに充実した講演会を企画してほしい。	事前に講演会の趣旨や、講師の研究内容などを生徒に伝え、問題意識を持って講演を聴けるようにしたい。また、自分の探究活動に講演内容をどのように生かせるか、あるいは生かしたか、課題研究のまとめの際にも考える時間を作りたい。	
		④ Oxbridge研修やその報告会などのグローバル教育を通じて、グローバル社会での生き方や異文化に対する理解が進んだ生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	B	B	B	報告会の一部を英語で行ったり、Oxbridge研修以外の海外研修参加者(明石塾)による報告も行った。また、文化祭での写真等掲示や、スライドの掲示等で、より多くの生徒に関心を持ってもらえるようにした。	外部アンケートの評価が低いのが、研修期間の短さや参加生徒の少なさも一因である。海外留学生等と交流することは非常に有意義なので、積極的に取り組んでほしい。	報告会の形式をポスターセッションなど、やりとりを含めた形を取り入れたり、他の海外研修参加者にも報告する機会を与えたい。また報告会だけではなく、日本に来る海外修学旅行生や留学生との交流を進めたい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について、適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	① 55分となった授業が工夫されており、授業に80%以上の生徒が満足している。	A	A	A	55分授業に変更するにあたり、生徒・職員ともに混乱がないように対応した。各先生方の授業の工夫も行われていたと思われる。	55分授業への変更はうまくいっているように思われる。授業参観の様子から、生徒の学習意欲、職員の熱意を感じる。	今後も55分に対応した授業の工夫を進め、さらに満足する生徒の割合を高めていきたい。	
		② 英語や数学などの教科で行っている少人数授業や習熟度別授業に90%以上の生徒が満足している。	A	A	A	満足度は高く、成果は上がってきていると思われるが、今後も少人数授業・習熟度別授業の在り方について分析を続け、効果を高める改善に取り組む必要がある。	継続して取り組んでほしい。	少人数授業・習熟度別授業のメリットを最大限に生かせる授業の在り方を各教科で研修する。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	① 生徒自ら考え、発表するなど、主体的な活動を行う生徒が80%以上である。	B	B	B	ICTの活用をはじめ、生徒が主体的に活動を行う授業形態の改善が勧められた。	継続して取り組んでほしい。	各教科で、主体的な活動意欲の低い生徒に対するアプローチの仕方を考えていく。	
		② 生徒が主体的に授業に取り組めるような授業改善のための研修会を各学年で年に2回以上と教科でも実施している。	B	A	A	ステップアップサポート事業、各教科での授業研究会を実施。教員対象のアンケートや生徒による授業評価の結果から、ほとんどの先生方は生徒の主体的な取組を中心に据えた授業を行っていることがわかる。	研修会の1回ごとを重要視してさらに授業改善を進めてほしい。	形式的な授業研究会にならないよう工夫しながら、授業改善につながる実のある研修会を学年、教科ごとに実施したい。また、他教科やクロスカリキュラムの有意義な取組なども、職員全体で共有できるように、クラッシャーなども活用したい。	
		③ 「土曜AL」の活動に参加し、主体的な学習に取り組もうとした生徒が80%以上である。(1・2年のみ)	B	B	B	参加した生徒のアンケートからは、満足度は高い。生徒の課題研究テーマに関連した講義を選んだり、最先端の研究を行っている研究者などに講義を依頼し、なるべく多くの生徒が興味を持って参加できるようにした。	新たな取組については、しっかり検証し、改善していってほしい。	新年度より探究同好会(仮)を新たに立ち上げ、生徒が土曜ALを利用し、外部教育活動により積極的に参加できるようにしたい。また、講座については、探究委員など生徒中心に実施できるように運営方法等を工夫、改善したい。	
		④ 英語等によるコミュニケーション能力が向上していると感じる生徒が80%以上である。	B	B	B	英語による主体的なコミュニケーション活動を授業内で実施。特にティームティーチングでは、4技能統合型の活動であるディベート形式の活動も取り入れ、コミュニケーション能力向上に努めた。	現在の英語教育のあり方では、この数字でも仕方ないと思う。	英語における「コミュニケーション能力」とは何か、CAN-DOリストを活用し生徒と改めて確認する。GTECの結果等も活用し、バランスのとれた英語力を目指す。また、生徒が自分の実力の伸長を確認できるように振り返る機会を設ける。	
		⑤ 各教科・科目で「探究的な学び」を取り入れた授業を行い、学習内容がより深く理解できたと感じる生徒が80%以上である。	B	B	B	校内研修や各教科の授業研究会を通して、指導方法について学び、意見交換を行う機会を設けた。	進学校において、生徒主体の「探究的な学び」を取り入れた授業を実践していることに意味がある。今後の継続・発展を期待する。	授業における「探究的な学び」を導入する必要性を生徒と共有し、探究の時間も含めた様々な授業の場面で取り入れることで、生徒が学習内容をより深く理解できるようにする。また、優れた実践例などは、教科を越えて、共有したい。	
		4 基礎・基本の定着を図る指導が充実していますか。	① 平均家庭学習時間を1・2年で3.0時間、3年で4.5時間以上確保して、予習と復習に努めている。	C	C	C	3年生は受験が近づくとおのずと学習時間が増える。大学受験のことを考えると、1・2年生のうちから家庭学習時間をもっと確保したい。	学習時間が少なくとも、効率的に行うことで成果を上げている生徒も多いと思うので、一概に時間の長さだけでは評価できない。	授業におけるアクティブ・ラーニングや校外の活動への参加を奨励することで、生徒の自発的な学習意欲を喚起したい。
	② 学校内での朝学習や放課後の自習室利用など、校内での主体的な学習に取り組む生徒が70%以上である。		A	A	B	3年生の取り組みは良好である。1・2年生の取り組み状況については、部活動との両立に苦労しているのかもしれないが、まだ改善の余地がある。	朝学習は、かなり効果的な取組のように思う。自習室の利用時間延長は、管理に負担が生じなければ賛成である。	文武両道、朝学習、考查前学習会といった前高の良さ伝統をうまく継承していきたい。	
	III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	① 学年会議・生徒指導部会議・教育相談係会議において、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っている。	B	B	B	学年会議・教育相談係会議においては、授業内に設定できるので、月に2回以上の生徒に関する情報交換を行っているが、生徒指導部会議は難しい状況である。	外部アンケートから見るとよい結果である。継続していただきたい。	生徒指導会議においては、今年度と変わらないと思われるので、最低限1回程度の定期的な会議の設定が望まれる。
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	① 遅刻をする生徒が、全校平均で1日あたり10名以下である。また、欠席率は1%以内(3年生は2%以内)である。	A	B	A	例年に比べ遅刻者は少ない。特に1学年は欠席者も少なく、両校である。	カウンセラーの先生と情報共有して、さらによりよい方向を期待している。	1学年の指導を参考に、入学後早めの段階からの注意が必要であると思われる。
			② 学校全体で、挨拶運動や規律遵守に取り組んでいる。	B	B	B	校内においては、挨拶がしっかり出来ていて、外部からの来客にも好評である。	連携を深めて活気ある学校になることを望んでいる。	校内においては、良好であるが、校外においては苦情なども届いており、その点の注意が必要である。
7 生徒が自主的に活発な活動をしていますか。		① 部活動に実人数で95%以上の生徒が加入している。また、県総体総合3位以上及び関東大会以上に出場の部活動5つ以上を目指す。	A	A	A	本年度よりSSHが採択され、生徒の活動の幅が広がり、外部活動に重きを置く生徒が増えたために部活動加入率が若干減少したと考えられる。	文武両道の伝統の成果であると感じる。今後の先行きが見えない社会を生き抜くためには、バランスのよい感覚が不可欠と考える。	次年度は探究総合が始まり、時間調整がより難しくなるので、顧問との話し合いを持つよう指導したい。	
		② 部活動が生徒の主体性を生かし、メリハリのある活動の中で充実していると感じる生徒が90%以上である。	A	B	B	部活動計画の作成はすべての部で実施されたが、その作成過程は各部ごとに違っていた。	3年生は受験もあり、充実度が低いことは理解できる。	部活動計画の作成に当たって、生徒の意見を取り入れるように促していきたい。	
		③ 部活動に取り組む生徒のうち、文武両道を実践していると感じる生徒が70%以上である。	B	B	B	学習時間の確保ができる活動を各部とも実施したと考えている。生徒の学習意欲を高める工夫を、部活動をとおしても考えている。	生活面の指導について、家庭と連携してさらなる向上を期待している。	クラス担任、部活動顧問、保護者で生徒の状況を共有し、定期的に生活面の見直しをさせたい。	
		④ 定期戦及び文化祭をはじめとした学校行事の内容の充実を図り、自主的・主体的に取り組めた生徒が80%以上である。	A	A	A	文化祭、優曇華、定期戦ともに実行委員の生徒は自主的・主体的に取り組めた。他の生徒のフォロワーシップ向上を目指したい。	充実した学校生活が実践されていることを頼もしく思う。	行事参加への意欲が生徒による温度差を感じた。集会等で目的意識を持たせるとともに、学年およびクラスでの指導を促したい。	

群馬県立前橋高等学校 学校評価一覧表② (平成31年度(令和元年度)版)

(様式2)

No. 2

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	総合			
8 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。		① 本校の「スマホ利用ルール」を理解し、それに従った生活ができている生徒が80%以上である。	C	B	C	入学の手引に掲載したり、年度当初に利用ルールを各教室に掲示しているが、入学時にすでにスマホを持っている生徒も多くなるなど、状況が変化している。	スマホの利用については、本人の意識とともに家庭との連携が不可欠。様々な機能も進化しており、指導の徹底が望まれる。	現在の生徒の利用実態を把握し、利用ルールの変更も検討していく時期に来ていると思われる。
		② 学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていると考えている生徒が90%以上である。	A	A	A	教育相談の先生方を中心に、学年団の協力の下、いじめ防止については確実に実施できていると考える。	調査やアンケートだけでは浮かび上がってこない点もある。生徒間、生徒・職員間での密なコミュニケーションや連携を。	SNS上の問題が増加する中、校内規定の追加等の検討が必要である。
9 読書指導が行われていますか。		① 学校図書館の貸出冊数が7,000冊を超えている。	B	C	C	全体としては貸し出し数は減少しているが、貸出冊数の増加の方策(国語の時間の図書館利用、読書レポートの復活)により12月は前年同月を上回るなど上昇傾向である。	継続して改善に取り組んでほしい。	純粋に本を読む姿勢を育むこととともに、SSHにおいても文献研究の不足の指摘も図書館とSSHを融合させたいと考えている。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	10 計画的な指導を行っていますか。	① 進路に関するLHRを各学年で年に10回以上実施し、80%以上の生徒が進路選択の参考になると認識している。	A	A	A	年度当初の計画をほぼ予定どおり消化できた。9割近い生徒が「進路選択の参考になる」と感じている。	良好である。今後も継続して行ってほしい。	引き続き生徒の実態に即した内容を検討し、計画的に進めていきたい。
		② 「前高ジャーナル」、「進路概況」や「進学の手引」を、80%以上の生徒が役に立つと認識している。	A	A	A	予定どおり作成、配付、活用できた。生徒の満足度は高いが、保護者全員に渡っていない可能性もある。	良好である。今後も継続して行ってほしい。	大学入試を取り巻く状況や本校生の志望動向など、生徒や保護者のニーズにあった情報を提供していきたい。
		③ 大学・企業・研究所研修、キャリア教育講演会、インターンシップ等のキャリア教育行事に満足している生徒が80%以上である。	A	A	A	生徒・保護者・職員ともに評価はきわめて良好であり、行事のねらいが共有できている。	社会人の講演はとて有効である。実際に職場を訪問できればさらによい。	学年や他分掌とも連携して、引き続き有意義な取り組みを計画していきたい。
11 生徒は自らの進路希望について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。		① 早朝補習や長期休業中の補習授業が、進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が80%以上である。	A	B	B	全員参加を原則とする長期休業中補習に対する生徒の評価がやや低かった。自分のペースで学習を進めたい生徒が増えていると思われる。	継続して取り組んでほしい。	単に時間を確保するのではなく、年間指導計画や授業との連続性を意識した講座を組んでいきたい。
		② 夏季休業中の学習合宿に参加した生徒のうち、学習合宿が進路希望の実現に役立っていると感じている生徒が90%以上である。	A	A	A	参加生徒の満足度は極めて高い。	良好である。今後も継続して行ってほしい。	塾・予備校の囲い込みや自習室の提供、公共施設の学習室利用など、生徒の学習環境の変化にどう対応していくか。
		③ 生徒のより高い進路目標の実現を目指し、生徒の大学合格率が80%以上、大学進学率が70%以上である。	—	—	未	担任と生徒との個別面談が綿密に行われており、円滑かつ納得のいく出願指導ができている。	職員と生徒の意思疎通を十分に行い、目標達成にご尽力いただきたい。	志望校検討会と個別面談が有機的につながるような流れを作りたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	12 家庭、地域社会に積極的な情報発信をしていますか。	① 「前高web page」の内容について、満足している保護者が90%以上である。	A	B	B	前高Webページの内容の見直しを行った。以前よりも更新を心掛けているものの、情報発信が遅れ気味になってしまっているのが現状である。	高校受験を控える中学生、保護者等は、Webページの情報を参考にすることが多いので、頻繁な更新が必要である。	行事ごとに担当者に記事を書いてもらうなど、担当者だけに頼らない体制を作りたい。
		② 学校通信「前高通信」などによる学校からの情報提供に満足している生徒・保護者が90%以上である。	A	A	A	行事や土曜Lについて、生徒や保護者に情報提供ができた。	良好である。今後も継続して行ってほしい。	発行回数や発行の体制を検討し、情報発信を充実させたい。
13 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。		① 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年に2回以上実施している。	A	A	A	各種講演会における講師として、同窓生の力を借りることが多い。今後はさらにその範囲を広げ、保護者や地域社会等の人的資源の活用も検討していく必要がある。	講演会は、より多くの保護者に参加してもらえるようお願いしたい。	同窓生を中心とした人的資源のリストとその整理を継続して進めていく。
		② 自転車事故減少に向けた交通安全教室や諸注意を受け、交通マナー・規則遵守の精神で自転車運転を行っていると感じている生徒が90%以上である。	B	B	C	3学期に急増した事故を憂慮し、生徒交通委員からのメッセージを全生徒に発信したが、その後も事故が続いてしまった。	交通安全は、生徒・学校ともに社会的評価の対象になるので、引き続き厳しく、根気強く指導して行ってほしい。	安全教室やHR指導、注意を実施した後、生徒が自分のこととして考えるような工夫をしていかないと効果は得られないと思われるので、その点の工夫が必要である。
14 生徒の安全意識向上の取り組みを行っていますか。		① 規範意識と危険回避能力を高める指導を行い、自転車事故15件以下を目指して指導する。	C	C	C	外部からの苦情や事故が発生するたびに交通法規やマナーの徹底を訴えているが、なかなか自分のこととして捉えさせることが難しい状況である。	自転車は車両であり加害者となり得ることを周知徹底していくことが必要。また、ヘルメットの着用を検討してはどうか。	事故発生の内容により、問題行動に近い形で厳しめの指導をし、事故を起こさない意識を高める必要があると考えられる。
15 環境面で生徒の安全が確保されていますか。		① 災害発生時に適切な行動をとることができると感じている生徒が90%以上である。	A	A	A	生徒達の緊急時における避難の意識が非常に高くなっており、状況に応じた行動も適切にできている。	良好である。今後も継続して行ってほしい。	浸水時における第1学年(1階)の上層階への避難計画を緊急時マニュアルに追加する。
VI 学校における生徒の健康・安全に努めていますか。	16 保健面で生徒の健康が確保されていますか。	① 保健面で安心感があると、80%以上の生徒が回答している。	A	A	B	今年度、学校保健委員会では食後の歯磨きを促す研究をして生徒に呼びかけた。新型コロナウイルス対策としては、入室前の手洗いうがいの励行を呼びかけている。消毒液は今後買い足していきたい。	健康第一は当然だが、生徒が心身ともに健全な学校生活を送れるようお願いしたい。	課題として、消毒液確保など感染症予防の徹底、トイレ環境の改善等がある。保護者行事におけるトイレ準備や片付けは、今後も他分掌や学年等と連携して行いたい。